

# 平成25年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	浜松市立豊岡小学校	氏名	江間 成昭
-----	-----------	----	-------

## 1. 印象に残る写真2点

### ● 「はっけよい、のこった！」



アカチの小学校で、児童たちに日本文化の相撲を紹介した。はじめは、私達日本人と児童で対戦した。どの子ども力が強くて、びっくりした。その後、現地の先生の提案もあり、児童同士の男女対抗でやったところ、女子が強かった。応援や勝利の時の歓声がすごかった。相撲ってこんなに面白んだと、改めて感じた。

### ● 「つながり」



帰国前、JICA 事務所前での写真。ガーナ人、ガーナで活躍する日本人、そしてやはり行動を共にしたガーナチームメンバー。「持続可能な開発」をテーマに集まったメンバーは、各自の個性が強く、こんな面白い人たちがいるんだと感じた。それぞれの思いや悩みを共有できた時間はとても貴重だった。またお会いできる日を楽しみにしています。メダワシー（ありがとう）！

## 2. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

### （特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて）

私の目的は次の2つだった。①国際協力の現場を見て、途上国が必要としているもの、持続可能な開発とは何かを考える。②教育の目的を再確認する。

①については、ガーナで活躍する多くの日本人やガーナ人の方々と話したり、インタビューを取らせてもらったりする中で、考えが次第にまとまっていった。お金や物ではなく、技術を伝えること、育てることが大切。相手に無理強いをせず、選択肢を伝える—「この方法もあるよ。他の方法もあるよ。選ぶのはあなた。」ぐらいのニュアンスで、自立を前提に援助する。国際協力する側とされる側の両方が、プラスになること。よいところを吸収しあえること。Win-Win の関係に、物質的にも、心の面（感謝、やりがい、好奇心等）でもなるこ

と。

②については、答えははじめからあるものではなく、大学などで学んだ教育の目的をベースに、自分で創っていくものだと考えるようになった。どんな人をつくりたいのか、つくるべきか（教育）は、その人自身の価値観、これまでの経験、環境、時代背景等によっても決まってくると思うから、教師一人一人が、教育基本法などの法律をもとに、周りの考えも聞いて、自分が目指す人間像をしっかりと持ち、考えていくようなものであるべきだと思った。今の私だったら、次のような人間像だと考える。知識と実行力のある人。暴力に暴力以外の方法で対抗できる人。つながり（家族、友達、恋人、地域、世界）を大事にする人。常にユーモアを忘れない人。自分の道をもった人。

児童には、授業では①を伝え、授業を含めた日々の関わりで②を育てていきたいと思う。

### 3. 訪問国から学んだこと（気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど）

#### （1）柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

マーケットで会った人々の笑顔、陽気さ、エネルギーがとても印象に残っている。人にもよると思うが、全体的に、真面目に商売一筋というわけではなく、気楽に商売して、会話を楽しんでいるといった感じだった。笑い声や笑顔が多いと感じた。また、衣服や髪型、おしゃれにこだわっていると感じた。マーケットの中にも美容院のようなところがあって、びっくりした。頭を使った物運びが普通だったが、どう見ても多すぎだと思う量を気軽に運んでいた姿が印象的だった。学校の子どもたちでも印象的だったのは、笑顔。人なつっこくて、大声で笑った。一緒に相撲をやったけど、大盛り上がりで、喜怒哀楽の表現がいいなと感じた。見せてくれたダンスは、躍動感あふれるもので、太鼓だけで踊れるなんてカッコいいと思った。音楽が生活に溶け込んでいるんだと思った。ノリのいい曲が校内に大音量で流れているのは驚いた。その音楽にのって小さな子がそこら辺で踊って、皆が微笑んでいるのもいいと思った。

#### （2）柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

ガーナで活躍する日本人には、農業、教育、保健、自動車整備等、自分の特定の分野で貢献する人と、業務調整のような人と場をつなぐ仕事をして貢献する人がいることが分かった。その方々のインタビューの言葉に衝撃を受けた。ある人は、次のように話した—何が何でも国際協力ではなくて、自分が興味をもったことをとことん突き詰めて、芯をもって生きていってほしい。その先に国際協力があるくらいでいい。自分は、農業の可能性を知るために海外に行った。また、ガーナ人が気持ちよく働けるように、自分がエンターテイナーになって、わざとこけたりしてみんなを笑わせて、職場の雰囲気明るくするように努めたという人もいた。どの人も、物や技術というハード面だけでなく、心や感情というソフト面も大事にしているのが、同じ日本人として誇らしく思えた。みんないい笑顔をしていた。国際協力とか世界平和っていうのは、技術も大事だけど、現地の人々ととどンドンコミュニケーションをとって、トラブルや笑いがある中で、共生していくことかなとも思った。

#### （3）柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

日本では、どの子も小学校・中学校に通い、教育を受けている。ガーナでは、地域・家庭によっては、学校

に行けない子どももいるが、行かない子どももいる。ある漁村の小学校では、二十歳前後の1年生がいるそうだ。また、学校に来ない子もいて、理由は、将来漁師になるから、学校の勉強は必要ないからだと言うそうだ。日本で児童に、「何で学校に行かなきゃいけないの？」と聞かれたことがある。価値観が多様化した現代では、学校に行く意味がないと考えることもあるようだ。日本でもガーナでも、教育の目的と同様に、教師自身が学校に行くべき理由をもち、相手に伝えていくことが大事だと思う。読み書き計算の力は全てのベースになるため、人とのコミュニケーションがうまく取れるようになる（社会性）ため、夢をかなえるため、自分になりたいものになるには読む・聞く力、書く・話す力が必要なため、世界とのつながりを考えるため等の理由を、自分もしっかり考えて、分かりやすく伝えていかなければと思った。ただ児童が学校に来るのではなく、目的をもって学校に来て、何事にも積極的に取り組むようにしていきたいと思った。

#### 4. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

「良い!と思ったところ」

- ・「持続可能な開発」をテーマに、相手国のニーズを考え、対話し、意思を尊重し、日本人がいなくなっても向上し続けていく視野をもって取り組んでいること。
- ・技術だけでなく、相手の心や相手の立場まで気配りができるところ。そういう考えの人が、国際協力をしているところ。
- ・普段あまり馴染みのない小中高の先生、教育機関の方々を巻き込んだ研修形態をとって、事前研修を十分にしてくださったこと。人のつながりができるとともに、視野が広がった。

「今後あるといいなと思う視点」

- ・ガーナ人たちが、JICA や日本の援助についてどう思っているのか、どうしていきたいのか、途上国側の人たちの意見をもっと直に聴けたらよかった。私も、もっと積極的に話しかけるべきだった。

#### 5. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・ガーナの買い物は時間がかかります。計算に時間がかかるのです。また、会計が違っていることもあるので、あまりにもおかしいと思ったら、しっかり伝えてください。レストランで金額が違っていたこともありました。
- ・これだけはするぞってことを、前もって決めておくといいです。私は、ガーナで活躍する日本人の方々に話を聞くぞ、インタビューをするぞと決めていたので、1人目からしっかりとすることができ、その後も順調に進みました。最後には、ガーナ人のインタビューもすることができました。わずかですが。マナビノオトやインタビューは、研修後の財産になっています。

#### 6. その他全般を通じての感想・意見など

- ・本研修の良いところは、ガーナで活躍する日本人の方々の話を直に聞くことができるとともに、現場を見ることができるところです。国際協力、開発教育、国際理解教育等に興味がある先生、ぜひ参加してみてください。持続可能な開発の現場を具体的に知ることで、見方が広がったり、これまでの自分の見方を振り返ることにもなります。事前研修も現地研修と結びついていて、援助とは何かってことを、自分なりに掴めたと思いま

す。現地研修では、毎晩の振り返りがとても有効で、学びの足跡になって、今でも財産です。ありがとうございました。

以上